



栃木県公報

令和 7 (2025) 年
9 月 5 日 (金)
号 外
第 41 号

目 次

規 則

○栃木県土砂等の埋立て等による土壌の汚染の防止に関する条例施行規則の一部改正…………… 1

規 則

栃木県規則第45号

栃木県土砂等の埋立て等による土壌の汚染の防止に関する条例施行規則の一部を改正する規則を次のように定める。

令和 7 年 9 月 5 日

栃木県知事 福 田 富 一

栃木県土砂等の埋立て等による土壌の汚染の防止に関する条例施行規則の一部を改正する規則

栃木県土砂等の埋立て等による土壌の汚染の防止に関する条例施行規則（平成11年栃木県規則第 3 号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に下線で示すように改正する。

改 正 後			改 正 前		
別表（第 2 条関係）			別表（第 2 条関係）		
項 目	基準値	測 定 方 法	項 目	基準値	測 定 方 法
カドミウム	検液 1 リットルにつき 0.003 ミリグラム以下	日本産業規格（以下「規格」という。）K 0102— 3 14.3、14.4 又は14.5に定める方法	カドミウム	検液 1 リットルにつき 0.003 ミリグラム以下	日本産業規格 K 0102（以下「規格」という。）55.2、55.3又は55.4 に定める方法
全シアン	検液中に検出されないこと。	規格K0102— 2 9.3.2 若しくは9.3.3の蒸留操作を行い、9.4、9.5、9.6（ただし、蒸留操作は装置にて行わない。）若しくは9.7の分析を行う方法又は水質汚濁に係る環境基準について（昭和46年環境庁告示第59号。以下「昭和46年告示」という。）付表 1（蒸留操	全シアン	検液中に検出されないこと。	規格 38 に定める方法（規格 38.1.1 及び 38 の備考 11 に定める方法を除く。） 又は水質汚濁に係る環境基準について（昭和46年環境庁告示第59号。以下「昭和46年告示」という。）付表 1

		作は装置にて行う。)に掲げる方法			に掲げる方法
有機 ^{りん} 燐	検液中に検出されないこと。	規格K0102—4 7.2.1及び7.2.3に定める方法又はパラチオン、メチルパラチオン若しくはEPNにあっては規格K0102—4 7.2.1、7.2.2.2及び7.2.5若しくは7.2.1及び7.2.6に定める方法(ただし、7.2.6に定める方法により測定する場合において、7.2.2のクリーンアップを行うときは、7.2.2.2に定める操作とする。)	有機 ^{りん} 燐	検液中に検出されないこと。	昭和49年告示付表1に掲げる方法又は規格31.1に定める方法のうちガスクロマトグラフ法以外のもの(メチルジメトンにあっては、昭和49年告示付表2に掲げる方法)
鉛	検液1リットルにつき0.01ミリグラム以下	規格K0102—3 13.2、13.3、13.4又は13.5に定める方法	鉛	検液1リットルにつき0.01ミリグラム以下	規格54 に定める方法
六価クロム	検液1リットルにつき0.05ミリグラム以下	規格K0102—3 24.3(24.3.7を除く。)に定める方法(ただし、24.3.2に定める方法により塩分の濃度の高い試料を測定する場合にあっては、規格K0170—7のa)又はb)に定める操作を行うものとする。)	六価クロム	検液1リットルにつき0.05ミリグラム以下	規格65.2(規格65.2.7を除く。)に定める方法(ただし、規格65.2.6に定める方法により塩分の濃度の高い試料を測定する場合にあっては、日本産業規格K0170—7の7のa)又はb)に定める操作を行うものとする。)
砒 ^ひ 素	検液1リットルにつき0.01ミリグラム以下、かつ、土砂等の埋立て等に係る場所の土地利用目的が農用地(田に限る。)である場合にあっては、試料1キログラムにつき15ミリグラム未満	検液中濃度に係るものにあつては規格K0102—3 20.2、20.3、20.4又は20.5に定める方法、農用地に係るものにあつては農用地土壌汚染対策地域の指定要件に係る砒素の量の検定の方法を定める省令(昭和50年総理府令第31号)第1条第3項及び第2条に規定する方法	砒 ^ひ 素	検液1リットルにつき0.01ミリグラム以下、かつ、土砂等の埋立て等に係る場所の土地利用目的が農用地(田に限る。)である場合にあっては、試料1キログラムにつき15ミリグラム未満	検液中濃度に係るものにあつては規格61 に定める方法、農用地に係るものにあつては農用地土壌汚染対策地域の指定要件に係る砒素の量の検定の方法を定める省令(昭和50年総理府令第31号)第1条第3項及び第2条に規定する方法
略			略		

アルキル 水銀	検液中に検 出されない こと。	昭和46年告示付表 3 及 び昭和49年告示付表 1 に掲げる方法	アルキル 水銀	検液中に検 出されない こと。	昭和46年告示付表 3 及 び昭和49年告示付表 3 に掲げる方法
略			略		
ジクロロ メタン	検液 1 リッ トルにつき 0.02 ミリグ ラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2 又は 5.3.2 に定 める方法	ジクロロ メタン	検液 1 リッ トルにつき 0.02 ミリグ ラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 に定 める方法
四塩化炭 素	検液 1 リッ トルにつき 0.002 ミリ グラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法	四塩化炭 素	検液 1 リッ トルにつき 0.002 ミリ グラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法
略			略		
1, 2ー ジクロロ エタン	検液 1 リッ トルにつき 0.004 ミリ グラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2、5.3.1 又は 5.3.2 に定める方法	1, 2ー ジクロロ エタン	検液 1 リッ トルにつき 0.004 ミリ グラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2、5.3.1 又は 5.3.2 に定める方法
1, 1ー ジクロロ エチレン	検液 1 リッ トルにつき 0.1 ミリグ ラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2 又は 5.3.2 に定 める方法	1, 1ー ジクロロ エチレン	検液 1 リッ トルにつき 0.1 ミリグ ラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 に定 める方法
1, 2ー ジクロロ エチレン	検液 1 リッ トルにつき 0.04 ミリグ ラム以下	シス体にあつては規格 K 0125 5.1____、 5.2 又は 5.3.2 に定める 方法、トランス体にあ つては規格 K 0125 5.1____、5.2 又は 5.3.1 に定める方法	1, 2ー ジクロロ エチレン	検液 1 リッ トルにつき 0.04 ミリグ ラム以下	シス体にあつては日本 産業規格 K 0125 の 5.1、 5.2 又は 5.3.2 に定める 方法、トランス体にあ つては日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 に定める方法
1, 1, 1ートリ クロロエ タン	検液 1 リッ トルにつき 1 ミリグ ラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法	1, 1, 1ートリ クロロエ タン	検液 1 リッ トルにつき 1 ミリグ ラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法
1, 1, 2ートリ クロロエ タン	検液 1 リッ トルにつき 0.006 ミリ グラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法	1, 1, 2ートリ クロロエ タン	検液 1 リッ トルにつき 0.006 ミリ グラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法
トリクロ ロエチレ ン	検液 1 リッ トルにつき 0.01 ミリグ ラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法	トリクロ ロエチレ ン	検液 1 リッ トルにつき 0.01 ミリグ ラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法
テトラク ロロエチ レン	検液 1 リッ トルにつき 0.01 ミリグ ラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法	テトラク ロロエチ レン	検液 1 リッ トルにつき 0.01 ミリグ ラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2、5.3.1、 5.4.1 又は 5.5 に定める 方法
1, 3ー ジクロロ プロペン	検液 1 リッ トルにつき 0.002 ミリ グラム以下	規格 K 0125 5.1 ____、5.2 又は 5.3.1 に定 める方法	1, 3ー ジクロロ プロペン	検液 1 リッ トルにつき 0.002 ミリ グラム以下	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 に定 める方法
略			略		
ベンゼン	検液 1 リッ トルにつき	規格 K 0125 5.1 ____、5.2 又は 5.3.2 に定	ベンゼン	検液 1 リッ トルにつき	日本産業規格 K 0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 に定

	0.01ミリグラム以下	める方法
セレン	検液 1 リットルにつき 0.01ミリグラム以下	<u>規格 K 0102 — 3</u> <u>26.2、26.3又は26.4に</u> <u>定める方法</u>
ふっ素	検液 1 リットルにつき 0.8ミリグラム以下	<u>規格K0102—2 5.2及び5.3、5.2及び5.4</u> <u>（妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあっては、蒸留試薬溶液として、水約200ミリリットルに硫酸10ミリリットル、りん酸60ミリリットル及び塩化ナトリウム10グラムを溶かした溶液とグリセリン250ミリリットルを混合し、水を加えて1,000ミリリットルとしたものを用い、規格K0170—6 6 図 2 注記</u> <u>のアルミニウム溶液のラインを追加する。）</u> 、 <u>5.2（蒸留操作を行う場合にあっては、フェノールフタレイン溶液を加えず、pH試験紙によって液性を判別する。懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあっては、これを省略することができる。）及び5.5又は5.2及び5.6に定める方法</u>
ほう素	検液 1 リットルにつき 1 ミリグラム以下	<u>規格K0102—3 5.2、5.5又は5.6に定める方法</u>
1, 4—ジオキサン	検液 1 リットルにつき 0.05ミリグラム以下	<u>昭和46年告示付表 7 に掲げる方法</u>

備考

1 ～ 3 略

	0.01ミリグラム以下	める方法
セレン	検液 1 リットルにつき 0.01ミリグラム以下	<u>規格 67.2、67.3又は67.4</u> に <u>定める方法</u>
ふっ素	検液 1 リットルにつき 0.8 ミリグラム以下	<u>規格34.1（規格34の備考 1 を除く。）若しくは34.4（妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあっては、蒸留試薬溶液として、水約200ミリリットルに硫酸10ミリリットル、りん酸60ミリリットル及び塩化ナトリウム10グラムを溶かした溶液とグリセリン250ミリリットルを混合し、水を加えて1,000ミリリットルとしたものを用い、日本産業規格 K0170—6 の 6 図 2 注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。）に定める方法又は規格34.1.1 c）（注〔2〕第3文及び規格34の備考 1 を除く。）に定める方法（</u> <u>懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあっては、これを省略することができる。）及び昭和46年告示付表 7 に掲げる方法</u>
ほう素	検液 1 リットルにつき 1 ミリグラム以下	<u>規格 47.1、47.3又は47.4</u> に定める方法
1, 4—ジオキサン	検液 1 リットルにつき 0.05ミリグラム以下	<u>昭和46年告示付表 8 に掲げる方法</u>

備考

1 ～ 3 略

4 1, 2-ジクロロエチレンの濃度は、規格
K 0125 5.1、5.2又は5.3.2により
測定されたシス体の濃度と規格 K 0125 5.1
、5.2又は5.3.1により測定された
トランス体の濃度の和とする。

4 1, 2-ジクロロエチレンの濃度は、日本
産業規格 K 0125 の5.1、5.2又は5.3.2により
測定されたシス体の濃度と日本産業規格 K
0125 の5.1、5.2又は5.3.1により測定された
トランス体の濃度の和とする。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

(資源循環推進課)